

「あなたの父と母を敬え。あなたの神、主が与えようとしているその土地で、あなたの日々が長く続くようにするためである。」

今日、お話しすることは、「父母を敬えば、あなたは幸せになります。両親も幸せになります。そして、神様も喜ばれます。」と言う事です。

青少年キャンプで、十戒を学んだ時、一番罪を認めて、悔い改めたのはこの第五戒「あなたの父と母を敬え」、そして第四戒、「安息日を聖なる日とせよ」でした。

この第五戒を学ぼうとする時、誰もが堅い古い道徳の授業を思い出すかもしれません。でも、この第五戒は十戒の中でも、とても大切な戒めなのです。ですから、見過ごしても、横に置いてはいけません。でも、自分の親の事を思うと、つい感情が入ってしまうので、そう簡単にも行きません。どうしたら良いのでしょうか。ある生徒「親を敬えないのは親にも欠点があるので、こっちも頑張るけど、親だって頑張って変わって欲しいよ、もう少し親らしい事してよ！」そんな声も聞こえて来ます。

第五戒は、繰り返しますがある人は非常に古い道徳の様に思っているかも知れません。又、ある人にはわかりきった事なのです。しかし、わかりきっている事と、実行出来る事との間には、天と地とのへだたりがあるのですね。

今日は、この戒めの内容に少しでも近づきたいと願っています。

さて、第一戒～第四戒は、神様と人との関係を示しています。

第五戒～第十戒は、人と人との関係が示されています。

当然、第五戒は、人と人との関係になるのですが、実はこの第五戒の戒めは、前半の四つの戒め、つまり神様と人との関係に、かなり近く結びついています。なぜならば、ここでは両親は子供に対して、神様と同じような（神ではありませんが）位置にあると考えられるからです。

——— 親と子との関係は、神様と人との関係に近い？ ———

人と人との関係の中で、最も身近で、密接で、深いものは、親と子との関係です。それは、他のどんな人々との場合（友人、先生、生徒、先輩、後輩、恋人）と全く違うのです。子どもは親から生まれます。そして、子供が生まれてから一番最初に出会う人は親ですね。

ですから、子供にとって親は神様の様な存在、特別な存在なのかも知れません。

——— 理想的な親と子の姿 ———

それにしても、両親を愛し、尊敬している子供が、その両親が信じている神様を、わが神として崇めるようになる、そのような子供は幸いですと思います。また、神様から与えられた子供が、やがて両親を信頼し、尊敬する様な子供に成長して行く、その恵みを見て神の聖名を崇めることのできる親は幸いですと思います。そのような親子、素晴らしいですね。

(エペソ 6:1~4 節)「子どもたちよ。主にあって自分の両親に従いなさい。これは正しいことなのです。『あなたの父と母を敬え。』これは約束を伴う第一の戒めです。『そうすれば、あなたは幸せになり、その土地であなたの日々は長く続く』という約束です。父たちよ。自分の子どもたちを怒らせてはいけません。むしろ、主の教育と訓戒によって育てなさい。」

——— 全生涯を含んでいる戒め ———

さて、この第五戒の戒めには2重の適用があります。

- ・第1は、未成年の子どもに対する適用です。
- ・第2は、成人した子どもに対する適用です。

——— 第1、未成年の子どもと親との関係 ———

では、まず未成年の子どもと親との関係について学びましょう。その頃の子どもにとって親は、神様のような存在です。

・第1に、親は何でも出来る人。子どもには必要なものをすべて備えてくれる人です。ですから、子どもは何にも心配せず、親の近くで安心して生きることができました。

・第2に、親はこの世界で一番えらい人です。

親の言葉は、子どもにとって法律でした。親は何でも知っていて正しいことを教えてくれる人でした。ですから、言われたことを信じて、従えば良かったのです。

・第3は、親は子供を愛する人でした。

子どもたちはみなそれを知っていました。ですから、どんな時でも安心して、しあわせでした。いつでもどんな時でも父母と一緒にいました。それが当たり前でした。

父母は、ある時いやがる私を、励まして教会に連れて行ってくれました。

父母は、家は苦しかったはずなのに学習塾に入れてくれました。

「母さんは夜なべして手袋編んでくれた」という童謡もあります。

朝、まだ暗いうちに働きに出かける父親、そして、夜遅く帰って来る父親。

当たり前になっていました。この様に、私たちが子どもであった時は、素晴らしい両親の

もとでしあわせでした。子どもは何も心配をしなくて良かったのです。

この幼かった頃、子どもたちは親によって、安全に守られています。そして、親は自らの苦勞したことは何も言いません。ですから、子どもたちは親の苦勞を何も知りません。幸せなのが当たり前なのです。

——— 子どもから、大人へと成長して気がつくこと ———

でもやがて、そんな幼少時代が終わり、成人になります。結婚をします。子どもが出来て親になって初めて気がつきます。自分がここまで成長してきた背後に、両親の心配と、労苦と、絶え間ない祈りがあったことに気づくのです。親を尊敬する思いが湧いてきます。そして、そんな親に何も感謝してなかった自分に気づき、今までの恩に報いようとするのです。ところが多くのケースですが「親孝行したい時には親はなし」これが現実です。何ともやり切れないですね。誰でもが、もう少し早く気づいていれればと思うことでしょう。

——— 親につまずくこともある ———

しかし、また別の面で、親を信頼できなくなる時期でもあります。親の今まで知らなかった弱い面を見てしまいます。自分の親と、よその家の親とを比較して、信頼できなくなってしまうのです。広い世界のいろいろな事が見えてくると、親がやけに小さく見えてしまう時があるのです。今までの尊敬の思いが崩れてしまい、親の言う事を、何でも鵜呑みにしてはいけないと思うようになります。そう、尊敬できなくなるのです。でもこれは、思春期にさしかかった時に、良く起こる現象です。でもこれは、子どもたちが知能的、体力的に成長してきた証拠で、感謝すべき事です。

でもこの時期は、体や心の中も急激に変化するので、疲れやすく、精神的にも不安定になり、急にうれしくなったり、悲しくなったり、怒りっぽくなったりします。親のすべてを否定してしまいます。反抗期ですね。そんな時、繰り返しますが、今まで道徳の規準にしていた親が、なんと人間的な弱みや欠点を持っていることに気づきます。そして、そんな親に失望し、尊敬できなくなり、いつの間にか裁きまくってしまう事があるのです。もちろん親も生身（なまみ）の人間ですから、欠点は必ずあります。でも、どんなに欠点のある親でも、そんな欠点をかかえつつも、今まで懸命に私を愛して、育てて下さった親なのです。その親を裁いて苦しめる事は神様の戒めに背くことになります。そして、神様を悲しませることになります。

健全な子供は時が来ると、体も心も大人になって行きます。

ある子供が大きくなった時、短い詩を書きました。

「父とけんかして泣きました。勝ってしまったので泣きました。」

目標であった父から、目標が消えてしまう時もあるのです。

——— 第2、大人になった子どもと親との関係 ———

今までの事からわかるように、子どもはいつまでも子どもではありません。まだ「未熟な」子どものうちは、「親に従いなさい」で良いでしょう。しかし大人になった子供には神様は次の様に言われます。「親を敬いなさい」と。

そうですね。少年少女は、年がたつうちに、全ての子どもは、大人になります。人生すべてのことを自分で決断し、自分で責任を取らなければならない時が来ます。子どもが、素直で良い子であることは良いのですが、しかし、子どもがいつまでも良い子で両親に従わなければならない事を期待していたら、彼は彼女は決して大人にはなれないでしょう。親の全面的な支配を受ける時期が過ぎますと、やがて親から離れて、自分で責任を取らなければならない時が来ます。ですから**親は我が子を、大人にしなればなりません**。自分を越えるような大人にです。いつまでも素直な子どものままにしておいてはならないのです。

ですから、この第五戒は子供の全生涯（子ども、成人）を含んでいます。子どもの時には「従いなさい」、大人になると、「敬いなさい」です。

「敬う」の意味は「重んじること、尊敬すること、高く評価すること」です。

——— 「敬いなさい」 ———

神様と人間との関係は、親と子の関係に最も近いと言いました。

私たちは、何か敬う理由があるから親を敬うのではありません。尊敬する何かがあるから尊敬するのではありません。神様が無条件で私たちを愛しているように、親も同じです。私たちは今の今まで、親の愛を受けて来たのです。たとえ親の側にどんな欠点があったとしても、神様は、ただ一言「敬いなさい」と言っておられます。そして、私たちがその戒めに従う時、神様は、次の様に言われます。「あなたの神、主が与えようとしているその土地で、あなたの日々が長く続くようにするためである。」そうです。「父母を敬う子どもを、神様は必ず幸せになさいます。」神様が、御子を与えたほどにあなたを愛されたように、親も命をかけて、我が子を愛しているのです。神様の祝福いただきましょう。

ある家の、娘さんが家出をしました。その日から、その家の玄関の戸は一度も閉じられたことはありませんでした。

最後に、献児式の時の、神様と両親との誓約のことばです。

「あなたはこの幼な子を主に献げ、主に託された者として、責任をもって常に祈り、これを愛し、これを守り、みことばによって育てて導くことを誓約しますか。」「はい、誓約します。」

親って素晴らしいですね。ですから、聖書は言います。「あなたの父と母を敬え！」